

1 研修プログラムの目的

研修 2 年目の選択研修において検査科を選択した研修医は検査における基本的知識、技能を修得する。

2 研修実施責任者

有井 潤子（検査科部長）

3 研修内容と到達目標

中央検査部では、患者から採取した血液や尿、便、体液など調べる「検体検査」と心電図、脳波、超音波など患者を直接調べる「生理機能検査」の 2 つに大きく分けられる。実際に体験・実習して、診断・治療の役割を学ぶ。以下に示す目標を達成するのが理想であるが研修期間が短いことを勘案し、以下の項目のうち研修期間中に体験できたものを修得する。

（１）一般的研修目標 (GIO)

検査における基礎知識、技能を習得し、検査に関わる臨床能力を習得する。

（２）個別的研修目標 (SB0s)

1) 検体検査

- ① 採血検査：患者確認と採血内容の確認を実施すること
- ② 一般検査：尿・便などの成分を調べ腎臓や肝臓、消化器の異常を把握すること
- ③ 血液検査：赤血球や血色素から貧血の程度、白血球から炎症の程度を把握すること
- ④ 生化学検査：血液中の酸素、タンパク質、ビタミン、ホルモンなどを調べ臓器の異常を把握すること
- ⑤ 血清学的検査：免疫機能の状態から身体に侵入したウイルス等を特定すること
- ⑥ 細菌検査：採取した検体を培養し細菌などの微生物を検出すること
- ⑦ 輸血検査：輸血のための血液検査や交差適合検査をすること

2) 生理機能検査

- ① 心臓系検査：心電図、心音図、脈波などを調べ心筋梗塞や心不全などの診断に利用すること
- ② 脳波検査：頭皮につけた電極で電氣的信号を脳波計で記録し、疾患などを調べること

- ③呼吸機能検査：肺活量など呼吸器の機能測定を行い、レントゲンではわからない肺や気管、気管支の状況を調べること
- ④超音波検査：身体に超音波を当てその反射波によって臓器の状況を調べること

4 学習方略 (LS)

検査科において実地研修を行う

- ・検体検査 SB0s 1)
- ・生理機能検査 SB0s 2)

週間スケジュール

月～金曜日 検体検査、生理機能検査

5 評価方法 (EV)

SB0s	目的	対象	方法	時期	測定者
1) -2)	形成的	知識・技能	実地観察	中・後	指導者

研修医の評価

研修医は PG-EP0C に自己の研修内容を記録、評価する。

実施責任者および看護師を含むチーム医療のスタッフが、研修医の診療および研修態度を研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価する。なお、評価票はインターネット上のシステム（PG-EP0C 等）を使用する。

各評価をもって 2 年目修了前に研修管理委員会にて総括的評価を行い、修了判定の資料とする。

初版：令和 4 年 1 月 24 日

改訂：令和 7 年 2 月 28 日

令和 7 年 7 月 1 日